

尚当日東京の日本芸能顕彰会(理事長鈴木
鉦次郎氏)から榊本会長に金色燦然たる新型
橋が贈られ理事長代理芸の友鈴木社長によつ
て満場拍手の裡に贈呈式を終り橋はそのま
舞台に飾られて光彩を放った。

加藤の兜、高千穂旭楓、壇の浦、山本旭紅
下条旭仙、西郷隆盛、秋元旭晨、竹本旭将、
絃旭岡、旭揚、安宅の関、中島旭穂、お蝶夫
人、宮垣旭輝、絃旭揚、旭濤、旭操、立方一、
大物の浦、若宮旭登、義士の本懐、木庭旭山、
小栗栖、梅原旭濤、坂崎出羽守、西川旭操、
絃旭岡、未練西行、橋本旭司、月に徳、ぶ、松
岡旭文、絃旭堂、旭晨、旭将、曾我兄弟、伊
藤旭揚、絃旭岡、小絃旭楓、大楠公、矢吹旭
美津、壺坂寺、田中旭照、蒼の水馬、田中旭
昇、浜本旭好、山吹の夢、坂田旭弘、橋中佐
一、榊本旭風、羅生門、原島旭粧、舞扇鶴、岡
柴田旭堂、絃旭粧、立方一、若き敦盛、旭
暢、旭楓、絃旭堂、旭粧、小絃旭操、立方一、
外に詩吟七、舞踊一。

五洲会 七月四日五時半東京上野本
琵琶演奏会 牧亭、菅公、洲洗、絃洲月、
小野訓導、前田洲月、屋島の誉、桑名洲聖、
竜の口、松崎洲陵、大楠公、原島旭粧、曾我
一、小山田實水、桔梗の旗上げ、平井洲誠、舟
弁慶、荒川洲帆。

薩摩琵琶晴 七月七日六時、九時東京杉
風文月例会 並区立高円寺会館。蒲生氏郷
一、會長淺野晴風、七脚落、近田、太田尾、諸
菅公、菅野、送別、近田、掛合俊寛、野口、
福島、秋海棠、坂入晴峰、義家と貞任、青木
晴城、重衡、大関英子、本能寺、加藤錦陽、
修善寺物語、杉山雅俊、歌人啄木、山下晴楓、
春望、望月啞江。

京都琵琶協会 七月七日一時会員平井
七月定例茶話会 春嶺氏宅。七月二十三日
祇園祭八坂神社奉納演奏会のプログラム発送
準備その他協議のあと二、三会員の演奏があ
り夕食を共にして八時散会。(出席者)伊吹、
戸田、戸倉、田中、梅原、矢吹、安住、牧、
古谷、美登里、平井、植村各氏。

梅原旭濤会の かねて豪華建築中の京都
老人慰問会 府長岡京市立老人福祉セン
ター竹寿荘が七月一日オープンしその門出を
祝い記念行事が七月二日から六日迄の五日間
三十六疊敷舞台付大広間で毎日午後一時から
三時まで催され第三日に筑前琵琶旭濤会一門
による熱演を展開して六十才以上の満員の老
人を喜ばせた。五絃陣、國友旭香外全員、粟
津の露、清水旭翠、山崎旭栄、川中島、富岡
旭雄、新撰組、相良旭輝、堅田落、梅原旭濤、
因みに第一日は浪曲大会(天光軒満月、京山
小田嬢外)、第二日民謡大会、第四日同
上、第五日仕舞演奏会が各々奉仕された。

ラヂオ 七月十一日夕五時NHK・F
琵琶放送 Mで雨宮薫水、竜の口、山本鶴
声、桶狭間(各十五分)両氏放送。

石橋旭嶺氏 七月二十二日から下記の
住所町名変更 通り変更、大阪市平野区平
野本町二丁目四、千五四七

○京都琵琶協会八月定例茶話会 八月四日
(日)午後一時会員平井春嶺氏宅。(欠席
者は当日午前中に連絡して下さい)

○琵琶を愛しむ会 八月十一日(日)十時
枚方市寿楽荘。一般参加歓迎。

○京都琵琶協会の旅行会 八月二十三日か
ら五泊六日北海道へ(二十三日東京迄新幹
線札幌空港、二十四日北海道神宮琵琶講
演奏会に参加、二十五日登別パークホテル
一泊、二十六日函館湯の川グランドホテル
一泊、二十七日東京迄復台列車、二十八日
新幹線で帰京)。

○京都霊山護国神社みたま祭奉納 八月十
六日(金)午後七時、琵琶二曲の外
邦楽邦舞数番。

三伏の炎暑厳しい折から各位の御
健勝をお慶び申上げる。昨年の空梅
雨に反して今年各地に豪雨をもた
らした同好諸氏の間にも被害を蒙られ
たお方があったのではなからうかと案じてい
る。本号は暑中交礼のお申込みを沢山頂いて
紙面を飾ることが出来嬉しく思う。その反面
掲載を予定していた坂本錦道氏の「小田原
尊師を偲ぶ」、辻旭城氏「湖畔の白峰彦根城」、
高橋旭洋氏「新曲山野の名花」その他の貴重
な記事を中心ならずも次号に廻さざるを得ない
事となった。御執筆者にお詫申上げ併せて御
寛容を願いたい。これからはしばらくが夏の本
番、どうぞ皆様充分御自愛下さい。

昭和四十九年八月一日発行(非売品)
編集者 植村 稟 水
発行所 京 絃 社
高槻市津之江北町一ノ二三
電話〇七三六(八五五)六〇五一番

琵琶
機関紙

京

絃

第二四二号 京 絃 社

楽理を学びながら

合理的に技を磨きましよう (六)

普門義則



小生の薩摩琵琶と呼んでいますのは鹿児島
島で発達した伝統琵琶で、正派薩摩琵琶を
指しておりますことを特に申述べます。

近代琵琶である筑前琵琶各派は、明治初
年北九州の荒神琵琶を楽器的にも又演奏技法
(弾、唱)に於ても初代橘旭翁が薩摩琵琶を
研究し改良し、又三味線音楽をも加味され、
其の後各派宗家も夫々上記の研究を続けられ、
五絃琵琶も新たに製作され薩摩の旋律が多分
に加味される等、三味線音楽の研究と相俟つ
て筑前近代琵琶が完成されましたことは慶
ぶべきこととあります。

又薩摩系に於ても明治初年鹿児島より上京
され、古来の郷土的な薩摩琵琶の伝統の優秀
性を東京に普及し、日本の民族楽の代表琵琶
樂を目指して帝國琵琶と改称し活躍された吉
水錦翁、同氏を師とする永田錦心は至難な技
法を要する弾法を従とし、特に歌唱法に主力
を注ぎ、芸術性を加えて能楽の唱法と東京風
の旋律をその唱法に加味して同氏の名演技と

功妙なる組織能力に依り、錦心流琵琶は全国
に普及されるに至りました。錦心の天才女流
門弟の水藤錦樓は、錦心流琵琶に筑前琵琶の
弾と唱法の長所を採用し、江戸三味線音楽を
多分に取入れ、又伝統薩摩琵琶の弾の技法も
研究し、之等の統一変化と綜合に苦心して錦
琵琶を完成したのは特筆すべきこととあります。

現在上記各派各流に属する名流演奏家は夫
夫の立場と行き方に、或は古来の伝統を固執
する古典派の者、近代琵琶樂の本領を發揮し
て活躍する者、琵琶を単に洋楽作曲家に音響
的效果に利用して、これを機会に興業的に
或新しい道を進まんとする者等実に多士濟々
であり、又若い後継者も出現して来たことは
慶びに耐えません。

然し乍ら琵琶樂も今後は國際的觀念を持つ
ことが大切であり、琵琶演奏家も今日では他
の邦楽家と接触することも多くなり、又洋楽
家と話し合う機会も起ると思えます。その時
琵琶の樂器として音域を尋ねられたり、又音

階及旋法は如何なるものですかと問われる場
合もあると思えます。この場合、洋楽は知ら
なくても琵琶樂としてその専門的な音楽的説
明位して先方を納得させる程度の知識の必要
は今に來るのではないと思えます。若い後
継者には特に必要であります。それで次に現
代琵琶の母体であり源流である薩摩琵琶のリ
ズムの概要と音階について申述べます。

薩摩琵琶は「語りもの」であります。語り
ものは歌詞の文学的内容を音楽的形式に基
いて表現するものでありまして、その形式表現
は言語的旋律であり朗読的旋律が主であつて
何れも拍節的でなく無拍節的呼吸リズムで
あります。之は基本吟、略して基吟(もとぎ
ん)、詩歌吟及吟替であります。拍節的リ
ズムは崩(くづ)れであります。何れも感覚
的な複雑な変動が多くて甚だ微妙な効果が生
れており、之が我々伝統の邦楽家が間(ま)
と呼び、この間(ま)の会得に精進しその面
白さを味っているのであります。薩摩琵琶の
間とリズムについては後日詳しく申述べること
にいたします。

◎薩摩琵琶樂の音階

薩摩琵琶と云う時は樂器を指称し、薩摩琵琶
樂と呼ぶ時は樂器及び樂器の弾法並に歌唱
法を総称することにしてあります。

日本の民族音楽を都節音階(陰旋法)と田舎
節音階(陽旋法)の二つに分類されておしま
す。この二つの音階は雅樂の旋律に属したる

のでありまして下記の通りであります。語りものである薩摩琵琶は他の民俗楽のように各種民謡、俚謡、わらべ歌、音楽的形式を主とし歌詞の文学的内容を従とする「歌いもの」邦楽のように之は都節音階(陰旋法)の何調であり、又は田舎節音階(陽旋法)の何調であると判然と決定することは困難であります。

先づ演奏者は男声、女声の自分の声域に従って何調(何本の調子)を十二律の絶対音にて定め、之を基準音に相對音感を以て各種旋律型に依って各種の音階旋法が決定されるのであります。その音階旋法は語りの最も古い島津日新斎作の春日野、武蔵野、華の香、迷語もどき等の譜付は謡出、地声、地吟、干流一、切、大干、中干、中干落、干投、中切、止、等の定形旋律は唱法、弾法共都節音階(陰旋法)でありまして、地の変調、干の変調(中吟)は唱法、弾法共田舎節音階(陽旋法)に変化してあります。これ等の古歌には漢詩、和歌吟も、崩(くずれ)、吟替のない基本的な朗吟旋律でありますので基吟(もとぎん)と名付けてあります。即ち基吟は都節音階と変調の田舎節音階の二つの音階が存してあります。和歌吟は都節音階(陰旋法)であり漢詩吟は都節音階(陰旋法)であるが吟じ始めの上行第二音に商の臨時音を用いてあります。次に崩は都節音階と田舎節音階との混合旋法であります。

全く趣が変わっており、吟替とは実に良く考えて命名されたと感じしております。吟替、始の地の唱法、弾法共今迄の律旋系(陰、陽、両旋法)でなく呂旋系(琉球旋法)の五声を採用して次の一、二の唱法も呂旋系であり、于二の弾法も呂旋系で吟替止の唱法と弾法は共に陰陽混合旋法を採用し、基吟に帰る都節音階(陰旋法)になり終曲となっております。小生が東京芸大、大学院に於て薩摩琵琶を音楽的に分析解説いたしまして、さすがは伝統薩摩楽が如何に合理的で音楽性に則り、変化と統一された立派な語りもの音楽であることを大学院生にも認めさせることが出来ました。



どうか薩摩琵琶の演奏家の皆様も、音楽的見地より見ましても完成された立派な芸術であることに誇りを持して、益々御研鑽下さいますようお願いいたします。

第二四〇号(四九一六一)誤植訂正

終りより四行目「高角微羽の高を商に訂正」調又は調子

我が道を行く

六十五年(一八)

西郷 天風

亦もう一つの墨付というのは、八咫家の主人が旧幕時代の御墨付をもちつたジャレごとで、二十歳台の若者に三百円の大金は不用だろから必要の時まで預って置く、と云う意味を含めた預り証だったが、私の場合、その金が必要であるばかりに学窓からこの商家の巷へと飛込んで来たのであり、その金ゆえに数ヶ月の辛酸に耐えつゝあるのであれば正に必要の時なのであった。従って御墨付は直ちにお下げ渡しを願いたき仕儀なのだが何となく言いそびれたのは、金銭にガツガツしておる様に見られたくないからであった。時も時、小原から三月勿々関西方面へ旅行するという連絡があり、出来ればそれまでに雲井館の負債を全部片付けようと思ひ、思い切つて八咫家の主人に、早稲田の森から出て来るようになった事情を打明けてその御墨付と云うのを貰うことが出来、お蔭で年来の懸案は解決し、漸く肩の重荷をおろすことが出来たのであった。

明治大正時代の三百円は正に大金であった。今日一万円札は容易に手にすることができらるであらう、しかし明治大正時代の百円札一枚はたやすく見ることすらできなかつた。当時親戚の一人に司法官候補と云う裁判官の卵みたいのがあり、その月給ならぬ年俸が三百円で結構中流生活の面目を保っていたが、その年俸と同額の三百円を私は一回の報酬で得た訳であった。

因みにこれは私の二十二、三歳時代の割合に近い年代の貨幣価値を例にした話で、若し其以前つまり百年に近い昔から今日までの間に於ける貨幣価値の変遷を知るのも又一興であろう。それに付ては今更詮索するまでもなくよい「メモ」のあるのを出した。

回顧すれば今次世界大戦終結の直前、卒然として他界された頭山満翁の御遺族泉様を茅ヶ崎の小和田兵金山邸に訪問の帰途、絃友の小林重三画伯の近況を問うべく次の辻堂まで足を伸ばし、駅前そば屋に立寄つた其時テールブルの壁に不思議な額が眼を引いた。よく見ればそれは明治四年から大正を経て昭和の四十年に至る間の、即ち九十五年間に亘る、「もり、かけ、そば」と「米一升」の値の比較表だったので、興の趣くま、これを書き写しておいたのがそれである。

Table with exchange rates for rice (米一升) from Meiji 4 to Showa 20. Rates range from 50 sen to 1000 yen.

Table with exchange rates for various items like '日清役' (27 years, 1000 yen) and '米騒動' (8 years, 600 yen).

明治の終りから大正五年頃の米価一升十三錢八厘を、昭和四十年以後の一キロ百數十円に比較すれば僅に一千余倍に当り、従つて大正四年に貰つた琵琶演奏の報酬金三百円は、今日に換算して四十数万円となり、一回の演奏によつて斯程の報酬を得た琵琶師は天下広しと雖も、正に天風唯一人とするも過言に非

閑話 休憩

さて松屋呉服店の五番々頭として、表座敷の中央にお帳場然と座ること五ヶ月ともなれば、身体のことしも大分馴れて足のシビレになやむことも無くなった頃、店に来る客も多くなつたのは、春の季節によるものであろう。しかし、そうした客は総て受持の番頭に任せ、私は机に座したまゝでおればよい洵に呑気な状態だったが、いつの頃とも知れず右乳の上部にチクチクと痛みを覚えるようになり、やがて激痛に耐えられぬ程となつた。

琵琶一泊親睦弾交會

四明会・正絃会共催。筑前、錦心流その他全琵琶人の参加で八月十日(土)から静岡県浜名郡舞坂町民センターで開催。附近には弁天島等風光明媚の遊覧地もあり一般の参加歓迎(一泊四食付二千八百円)参加希望者は至急左記へ申込ませたい。○東京都中央区中野一ノ三二六仲川秀邦女史。○京都市北区平野宮西町六四平井春嶺氏。○浜松市積志町一八三一 小野鶴彦氏。(京絃七月号予告の八月十九日浜松林業の家における薩摩四明会納涼一泊会は上記に変更されました。)

暑 中 御 見 舞			
<p>〒176 水 藤 五 郎 東京都練馬区旭町三ノ二二ノ四 電話 (九三〇) 四四九八番</p>	<p>〒171 藤 卷 旭 鴻 東京都豊島区高松三ノ十二 電話〇三(九五五) 三六四五番</p>	<p>〒040 高 橋 蘇 水 函館市青柳町二六ノ一四 電話 (二二二) 八三六五番</p>	<p>〒189 法 桂 山 若 宮 旭 登 東京都東村山市美住町一ノ四 電話〇四二二三(九一) 九三二一〇番</p>
<p>〒431-31 小 野 鶴 彦 浜松市積志町一八三一 電話〇五三四(三四)〇八七一</p>	<p>〒011 星 野 崖 水 秋田市土崎港中央四丁目九番 電話 (四六) 三三三四番</p>	<p>〒950 伊 藤 啓 水 新潟市粟山三九九ノ一 電話〇二五二(七六)〇二〇八番</p>	<p>〒350 熊 木 菫 水 埼玉県川越市南通町一ノ一 電話〇四九二(二二) 四四六一番</p>
<p>〒418 内 藤 欧 水 静岡県富士宮市小泉五〇一ノ三 電話富士宮〇五四四(三六) 六二五七番 有線富士根農協〇三二六二五番</p>	<p>〒569 吉 井 良 三 高槻市南総持寺町 電話〇七二六(九六) 八五一六番</p>	<p>〒618 秋 元 旭 晨 大阪府三島郡島本町桜井四丁目 電話〇七五(九六一) 五〇四八番</p>	<p>〒178 鈴 木 誉 士 東京都練馬区豊玉北五ノ一一 電話の友社 (九九一) 〇三六三番</p>

暑 中 御 見 舞			
<p>〒166 竹 下 翠 風 東京都杉並区下高井戸五ノ二二 電話〇二一(三〇三) 五八九四番</p>	<p>〒369-12 大 井 錦 淀 埼玉県大里郡寄居町玉淀 電話〇四八五(八一) 一七四〇番</p>	<p>〒181 日本琵琶 三位研修同志会本部 東京都三鷹市上連雀 二ノ九ノ十二 大村方</p>	<p>〒535 塩 谷 旭 洲 大阪府旭区中宮四ノ一二ノ一四 電話〇六(九五) 九二九四番</p>
<p>〒950 桶 口 禁 水 新潟市米山西通り一四九番地 電話〇二五二(四四) 七〇九二番</p>	<p>〒160 柏 会 員 一 同 東京都新宿区西新宿七丁目一五 柏ビル内</p>	<p>〒520 大 津 旭 嶺 大津市中央二丁目一番十号 電話〇七七五(二四) 五〇六五番</p>	<p>〒198 岡 部 錦 蝶 東京都青梅市大門七八七ノ一 電話〇四二八(二二) 四四五八番</p>
<p>〒649 泉 勝 院 峰 口 高 昇 和歌山県白浜町走り湯白良ヶ丘 電話〇七三九四(二) 二二六八番</p>	<p>〒247 新 納 岳 窓 横浜市戸塚区元大橋 電話〇四五(八九) 六三〇九番</p>	<p>〒183 坂 本 錦 道 東京都府中市新町二ノ六八 電話〇四二三(六一) 五六八四番</p>	<p>〒160 洲 鳳 会 長 山 田 洲 鳳 東京都新宿区新宿一ノ十四一 電話 (三五二) 七三六六番</p>

舞 見 御 中 暑	
〒114 東京都北区田端町一五三番 電話(八二二)六六六二番 振替 東京二〇〇四一番	日本芸能顕彰会 理事長 鈴木 鉦次郎
〒569 高槻市津之江町二丁目二二ノ三 電話〇七二六(七一)六五八〇番	筑前琵琶橋会宗範 大和流琵琶吟家元 山崎 旭萃 山崎 光椽
〒573 枚方市御殿山南町三番 電話〇七二〇(四一)七七二〇番	筑前琵琶日本旭会 東大阪旭会 会長 榊 本 旭 風 〒537 大阪市東成区神路三ノ八ノ十八 電話〇六(九八)二二九一 夜間電話〇六(九七)二七七八番
松田 旭波	〒544 大阪市生野区小路二丁目 電話〇六(七五三)〇〇六六七番 (七五二)〇〇六六七番
高千穂 旭 楓	

舞 見 御 中 暑	
〒154 東京都世田谷区太子堂二丁目 電話(四一四)六五七八番	宮崎 直二
〒520 大津市逢坂一丁目一三ノ三一 (蟬丸神社前) 電話 大津(二四)九三二八番	松岡 旭岡 伊藤 旭暢
〒843 越谷市大成町一ノ二三九二 電話〇四八九(八二)二二四一三番	日本琵琶振興会 会長 鈴木流泉 顧問 松田静水 " 山崎旭萃 " 大野惠造 " 菅根悠光 相談役 望月啞江 " 山田洲鳳 " 三田村錦霞 " 柴田深泉 " 井上義雄
月例親睦研究会 会場 東京・新宿洲鳳会館 電話〇三(三五二)七三六六	

暑 中 御 見 舞	
<p>〒650 市 来 芦 村 芦屋市三条町二四八 電話〇七七七(二三)四三三八番</p>	<p>〒164 薩摩調物語琵琶 創始者 浅野晴風 東京都中野区中野二ノ二五ノ六 電話(三八一)八九二二番</p>
<p>〒570 錦心流琵琶吟水会 小川西浦水 小川西浦水 守口市緑町土居団地十一号 電話(九九二)五六二五番</p>	<p>〒662 錦心流琵琶 教室・蓮水会 哲泉流詩吟 三浦蓮水 西宮市羽衣町七ノ三四 電話〇七九八(三三)五八八七番</p>
<p>〒625 筑前琵琶旭会 舞鶴琵琶協会事務所 高橋旭洋 舞鶴市朝日通五条東入 電話〇七七三(六二)五二六二番</p>	<p>〒370-12 全国朗吟文化協会関東副部長 テイチクレコード専属 群馬県高崎市岩鼻町二四七 電話〇二七三(四六)二〇〇六番 (局前) 日本錦古流詩吟総本部 宗家 針谷錦古</p>

暑 中 御 見 舞	
<p>〒662 錦心流琵琶 一水会神戸支部 西宮市羽衣町七ノ三四 三浦蓮水方 電話〇七九八(三三)五八八七番</p>	<p>〒570 錦心流琵琶 一水会大阪支部 守口市緑町土居団地十一号 小川吟水方 電話大阪(九九二)五六二五番</p>
<p>〒124 邦楽鶴鳴会 主宰 社団法人東洋音楽学会々員 史城普門義則 教室 東京都葛飾区堀切二ノ六〇ノ三 清和荘二階一五号 電話〇三(六九四)九五七九番</p>	<p>〒156 東洋油彩画人協会 邦楽名絃会 西郷天風 東京都世田谷区経堂三ノ三七 電話(四二九)八〇八三番 ノ六</p>
<p>〒601 琵琶三美会 会長 矢吹旭美津 田中鵬水 富山旭貴 西村旭富 一坊寺旭清 外門人一同</p>	<p>筑前琵琶旭昇会 師範 田中旭昇 神戸市長田区梅ヶ香町一ノ一四 電話〇七八(六七)〇〇一八番 ノ四 師範 浜本旭好 相生市相生三丁目一四ノ一七 電話〇七九一二(二)五一八番</p>

暑 中 御 見 舞

薩摩琵琶

仲川秀邦

〒164 東京都中野区中央一ノ三二ノ六
電話 (三六一) 七七四〇番

筑前琵琶橋会

押川旭葉

〒250 -04 神奈川県足柄下郡箱根町強羅
電話 〇四六〇(二) 二一一二

錦心流一水会多摩支部長
輝絃会 同人
各流派琵琶武絃会事務所

伊藤磐水

〒184 東京都小金井市本町一丁目
八ノ五
電話 〇四二三(八一) 三三四四番

水也田流 琵琶楽
琵琶講談

総師範 縁鶯齊 美登里進水

〒600 京都市下京区西新屋敷下之町
電話 (三四一) 一六七四番

錦心流大館派琵琶

平井洲誠

〒359 所沢市日吉町十七ノ十三
電話 〇四二九(二二) 三一七五番

円城流詩吟

平井円城

愛媛琵琶連盟顧問
薩摩琵琶松山晃絃会

佐藤晃絃

〒790 松山市柳井町一丁目
閑居庵 電話 (二二) 三二一七番
松山市立花町三丁目五ノ六
電話 (四一) 三八八七番

狂醉亭漫録 (第百二)

大坂落城異聞 (二)

古谷 竟水



大坂冬の陣講和条件三ヶ条の内、秀頼参勤と移封の件は、豊臣氏の勢力を削ぐべくその手を断ち足を切るといふ、徳川の謀略精神の現われで無念乍ら止むを得ずと観念するも、第三条の淀君を家康の側室に出す件は大坂方の怒りを爆発させた。殊に淀君は好悪の烈しい性格で、家康を不倶戴天の仇敵と考えていた矢先なので怒髪天を衝き、持病のヒステリIを起し昏倒した程であった。

大坂方の重臣達の内では此の件に關し二つの見方があった。一つは家康は七十三歳の老令であり、(事実一年半後七十五歳で死去している。)健康も勝れぬ様子なので、逆も側室を求め肉體条件ではなく、只自尊心の高い、傲慢不遜の淀君に鉄鎚を加える目的であるという見方で、もう一つは家康も木石ではない淀君の若い頃からの艶姿や、太閤の度を過ぎた寵愛の有様を目視し、一度はあの様な女を側近にと豫て思っていたが、現在征夷大將軍の重職を占めて思ふ事成らざる無き身の上、古くから想いを掛けていた彼女を、仮令短期間たりとも側近に侍らせて思ふ存分弄びたいという野心があるかも知れぬと解し、大坂城内は両説に分れたが、何れにせよ承諾出来ぬ

暑 中 御 見 舞

梅原旭濤

〒617 向日市西向日鶏冠井町
山端二番地
電話 (九三一) 一六九一番

静岡県吟詠同志会副会長
琵琶吟詠正吟会々長

伴野鶴風

〒420 静岡市沓谷三丁目一九三ノ二
電話 〇五四二(六一) 九四四四番

松本明重

自宅 京都市東山区祇園町南側
電話 (代) 〇七五〇
雲濤居 京都市東山区山科三三七番
電話 〇七五 (五九二) 四〇四番

日本民主同志会
中央執行委員長
宗教法人世界救世教
外事対策委員長

伝統芸能懇話会

渡会恵介

〒616 京都市右京区太秦御領田町一九
電話 〇七五(八七) 四一六四番

事なので一同硬化するばかりであった。
淀君(一六一五)豊臣秀吉の側室。父は
近江国浅井郡小谷の城主浅井備前守長政。母
は織田備後守信秀の女で信長の妹に当りお市
の方と云われた。呼び名を茶々といひ当時の
人々は淀殿と称した。之は淀城に居った事よ
り起った名である。

天正元年九月、小谷城は信長に攻められて
陥り、父長政は戦死したがお市の方は長政の
命により茶々を頭に三人(即ち淀殿と後の京
極高次の室常高院及び徳川秀忠の室崇源院の
三姉妹)の息女と共に長政の家臣藤懸三河守
に守られて兄信長の陣所に送られた。

斯くて茶々姉妹は信長の弟上野介信包の手
によって養育せられ尾張国清洲城に居ったが
天正十年六月本能寺の変後、織田家の宿将が
清洲に会して信長の後嗣を定め遺領を処分し
た時、信長の三男神戸信孝の媒介によりお市
の方は柴田勝家に再嫁したので、茶々等は母
に従って勝家の居城越前国北の莊に移った。

天正十一年四月賤ヶ岳合戦の結果、勝家は
羽柴秀吉に破られて北の莊に亡び、お市の方
も勝家に殉じた。その直前茶々は勝家の命に
よって二人の妹と共に秀吉の陣所に届けられ
秀吉に養われたのであるが、天正十六年の頃
秀吉の側室となって寵を受く。(竟水註。此
時秀吉五十三歳。淀君十七、八歳位。)

月秀吉との間に棄丸という男子を産み、後に
之を鶴松と称し、鶴松が秀吉の寵愛を一身に
集めると共に淀君の側室としての地位も次第
に他の側室を凌ぎ、十八年の小田原の陣にも
秀吉に随伴したが、この頃は太坂に居を移し
たようである。鶴松は十九年八月に夭折した
が、文禄元年朝鮮の役起るや、又肥前国名護
屋の陣營に秀吉に随伴したが陣中に於て懐妊
して太坂に帰り、文禄二年八月拾丸を産み、
三年の秋に伏見の築城が成就するや、その十
二月、拾丸と共に伏見城に移り、同城西の丸
に住んだ。拾丸は慶長元年十二月元服して秀
頼と称した。かくて淀殿は、秀吉よりはお袋
様などと呼ばれ、秀吉の正室杉原氏を初めと
して、他の側室にも子が無かった関係上、権
勢は杉原氏を凌ぐばかりであった。慶長三年
八月秀吉歿後は、四年十月秀吉の遺志により
秀頼を擁して太坂城に移り、石田三成等と謀
り豊臣家の前途につき画策する処あったが、
秀吉の遺臣は淀殿方と杉原氏方とに分れ、五
年九月関ヶ原の合戦に、三成以下淀殿方は殆
ど亡び、豊臣氏に代って徳川氏の勢力日に隆
盛を加えた。

されど淀君は父長政の滅亡、母お市の方の
自殺等を眼前に見、一族滅亡離散の中にあっ
て、孤児より一躍天下の覇者秀吉の側室と成
って、栄耀を極め、秀吉の後嗣秀頼の生母とし
て、諸大名を脚下に平伏せしめた淀殿はこの
徳川氏の勢力に屈服するを欲せず、その為す
所却って豊臣氏の天下を危くし、慶長十九年

元和元年の両度太坂に籠城して、徳川氏の大
軍と交戦するに至り、元和元年五月八日遂に
城陥り秀頼と共に城中に自刃して果てた。時
に四十余歳。淀殿の死歿年令については諸説
あって詳かでないが、当時の名医玄朔道三の
配州録の慶長八年の条に、内大臣秀頼公御母
三十余歳、とある事により推せば、元和元年
死歿当時は四十余歳と見るべきである。

(竟水註。此の文中杉原氏とあるは、秀吉未
だ足輕時代に、同輩前田犬千代(後年の利家
一)と競い合つて獲た寧々夫人、即ち後年の高
台院北の政所の事である。)

さて秀吉は五十四歳で初めて長男鶴松を、
五十八歳で次男秀頼を得た事になるが、此点
に就て古来異説百出で、太坂城内にても秀吉
在世中から早くも秀頼異父説が称えられた。
元来秀吉は二十歳代で寧々夫人と結婚し其後
身分の昇進するに連れて多くの側室を持った
が子供は一人も生れなかつた。其理由として
は秀吉未だ輕輩の頃には何分猿面異相の事と
て、彼を相手にする女性は無かつたので、止
むを得ず彼方此方の町辻や土手に於て暮夜ひ
そかに春を売る低級の娼婦を相手にした為、
悪性の病毒に侵され精子を失つたので、女性
を妊娠させる能力を無くしたものと、世の人
人は推察していた。

その秀吉が五十歳を過ぎてから淀君の腹に
二人迄子供が宿つた事は実に不思議とも云う
べきである。其上太坂城内では秀吉在世中か
ら淀君の不倫が噂され、当初の相手は石田三

成、其後の相手は大野治長が噂に上った。
秀吉の長男鶴松は生後二年余で夭折したの
で問題は無かつたが、次男秀頼は成長するに
つれて両親に似ず大兵長身で、而も面貌は大
野治長に瓜二つの為、大野落胤説が相当根強
く流布されたが、秀吉の耳に入らなかつたの
は寧ろ不思議と云うべきである。
秀吉の秀頼熱愛は常規を超え、蓋世の英雄
とも称せられる秀吉も子供の前では馬鹿親父
と化し、自分の死後に於ける秀頼の後見人数
名を選定遺言した事は世に知られている
(以下次号)

「滑稽琵琶餅酒合戦」

一 琵琶人

七月一日夜十時二十五分NHKテレビ「芸
能百選・語り物の芸能」で、説教人形浄瑠璃
祭文松阪、デロレン節などと共に吉塚旭貫堂
氏が盲僧琵琶「滑稽琵琶餅酒合戦」を放映さ
れて視聴した方もあつたと思うが、歌詞の内
容は兎も角として、奏者の演奏態度が実に下
品極まるもので、語りながら琵琶器を上下左
右に振つたり膝下に置いて正座を崩したり、
遂には頭上高く水平に持ち上げたまま、寄席芸
人がするような頭上の連れ弾きを繰返すなど
奇想天外の演奏を放映された。
歌詞が滑稽琵琶というので殊更に意識して
視聴者の共感を得る為、身振り手振りも面

白おかしくして演奏効果を狙つたのかも知ら
ぬが、之は優雅高尚であるべき琵琶音楽を冒
瀆するもの甚だしく、近時兎角退潮を歎かれ
る琵琶音楽全般のためにも大きなマイナスとな
り、琵琶楽に詳しくない一般人の誤解を招き、
悪い印象を与えたとすれば遺憾この上もない。
演奏後の説明によれば、使用された琵琶器
は今から五、六百年前のもので、現在盲僧琵
琶を演奏するのは、相当と見受けられる
吉塚氏只一人だけとの事であつたが、過去
の盲僧琵琶、平家琵琶や今の薩摩琵琶、筑前
琵琶等の区別があつても、何も知らない一般
人は単に「琵琶」と総称し片付けてしまふ。
この人達が「なんだ、琵琶楽とはこんな下素
(げす)っぽいものなのか」で無難作に見送
られては、我々琵琶人にとっては全く心外で
あると云わねばならぬ。

やむにやまれぬ気持ちで一筆書いたが、筆
者の杞憂であるならば幸である。

祝 京絃創刊

二十周年 (三)



京絃二十周年お芽出度うございます。永い
年月を継続して有益な記事を載せられ、同好
者を楽しませ、そして励まされるのは誠に有
難い事でございました……。

矢倉 ポール
京絃二十周年、心からお祝い申し上げます。
本当にと苦勞でした。尚將來の御奮闘を祈り
つゝ……。
小野 鶴彦
今回京絃創刊二十周年を迎えられましたこ
とはまことに慶賀の上もありません。謹ん
でお祝い申し上げます。

二十年前といえは私が戦後の空白期間を経
て再び琵琶に親しみ始めてからまだ間もない
頃のこと、東西の大家をお訪ねして御高見
を拝聴したり、拙技の御批評を戴いたりして
いた頃に当ります。その頃関西の薩摩正派系
には京都に栗本天芳という大家が活躍して居
られるというのを承り所用あつて京都に赴
いた折のこと、市電河原町三条で下車し、附
近の店で、この辺に栗本先生という琵琶をな
さる方があると聞いて来たが御存知ないかと
尋ねました所、お名前はよく知らないが琵琶
の先生ならあそこのお店だと教えて頂いて伺
う途中、栗本先生と云えば関西切つての大御
所でお宅はこゝをこゝ行つた所と丁寧説明
して下さつたお方があつて、私は植村真水と
いう者で錦心流をやつていますとの事でした
これが栗本先生をお訪ねした最初であつたと
同時に、植村先生は覚えておいでにならない
と思ひますが先生との初対面であつた訳で、
以来何となく懐しい思いがしておりました。
それ以来栗本先生のお宅へは再三お邪魔し、

先生について技を磨いておいでの山之内兼光先生とも親しくして頂き、四明会にも入会させて貰い京阪神の方々と親しく交らせて頂くようになった次第です。

そんなことで「京絃」誌上にも私の名が出ることしばしばであり、その後浜松でも会員がふえて演奏会を催すようになりその記事も京絃誌上に載せられるようになりましたので平井先生を通じて購読するようになりました。

私が何よりも「京絃」に興味を持つことは、一言にして云えばこの誌を手にするのと温かいというか和やかと云うか、何となく心のなごむ懐かしい感じがすることです。このような趣味の世界の機関誌は数多く出ていると思いますが、自流の為のものは勿論自流様々で、それはそれでよいと思いますが公平な立場の機関紙でも編集者の如何によって高尚過ぎて遠い世界にあるような感じのするもの、或は論旨が自信に満ちて読む側としてはきつい感じのするもの、又は殊更に名人妙技を褒めそやすというふうなものもありますが、その点京絃は読んで心が和み記事にとけ込んでいくもので私の性に会っているということですからこれは投稿の方々がまたそういう気分の持ち主で而もよく研究されて精華を発表して居られ、その時々の記事も淡々として真相を素直に知らせ少しもいや味が無いということではないかと思えます。

「京絃」がこの調子を持ち続けて永く永く私共の心を楽しませて下さるようにならざるを得ないと思えます。京絃創刊二十周年心からお慶びお祝申上げます。……

……一口に二十年と申しましたが「京絃」をこゝまで立派に育てられた御苦労は並大抵の事ではないと存じます。茲に会員一同に代り

石橋 旭 嶺

中尾 金 弥

森 鶴 翁

御誌の益々御隆盛と先生の御健康をお祈り致します。私も今年は早く健康を取戻して訪京したいと念願して居ります……

前略、京絃紙もこの六月で二十周年を迎えらるゝ趣誠にお目出度永年の御苦労もさこそと斯道に携る立場から感謝に堪えぬ次第です。亦読者として後輩の私は故人長浜南城氏との約束を果たすべく毎号歌筆を弄して紙面を汚し御迷惑の事と恐縮致し居る次第……

田 中 歎 水

京絃二十周年何より慶賀の至り、一回の休刊もなく続けられることは並々ならぬ御苦労にて真に琵琶発展の為絶えざる御熱情以外何も無い氣迫のかたまりと云うべく植村氏にして始めて為し得る処と思惟します。益々御健康にて個性ある京絃紙にして下さるならば有意義だと思ひ、今後の大飛躍を念願して祝詞といたします。

……京絃紙多年にわたつてのご刊行ご苦心のほど推察に余りあるものがございませう。そのご功績に心より敬意を表し、感謝申上げております……

左 藤 晃 絃

秋 元 旭 晨

京絃二十周年御目出度御祝い申上げます。我々初心者にとり毎月が楽しく待ち兼ね

寺尾 旭 吉 栄 女 史

大阪寺尾旭吉栄女史の寺尾ビル落成祝賀会 史が昨年来東住吉区駒川町に新築中の寺尾ビルが今般落成しその祝賀宴が六月二十六日に開かれ筑前琵琶会の重鎮を始め二十数氏が列席して祝った。当日演奏者は堀田旭甲・七福神、山崎旭萃・戦艦大和、矢吹旭美津・茨木、田中鶴水・平野国臣、辻旭城・坂崎出羽守、石橋旭嶺・寺尾松風、尚寺尾女史は琵琶の外柀屋志津松、寺尾松風の号を持つ多芸多趣味の人である。

日本琵琶振興会 六月二十三日一時一八

月例親睦研究会 時東京新宿洲鳳会館(會長鈴木流泉氏)。一時間程琵琶と詩吟の自由研究をしたあと出席者達の演奏を楽しんだ。尚当日薩摩琵琶器新作第五号が発表された。

寺尾 旭 吉 栄 女 史

六月二十三日一時一八

て拝読させて頂き其の都度お教えを頂く事の多いこと、其の内容に只々感謝しております。(中略)今後益々御発展を衷心より御祈り申上げます。



北海道神宮琵琶講 五月十八日左記の通役員 改選り役員改選。顧問：前田勝也、榎本芝水、相談役：伊藤喜六、松谷実、吉良智信、三島常鳳、米沢環水、金子天香、山崎紅水、松森毅水、中井岳鳳、講長：内山鶴崇、副講長：渡辺飛水、加藤夕水、理事長：広川岳楓、理事：木村長水、天野徳水、室谷幹水、安達弦水、小野啓水、監事：米沢環水、金子天香。

薩摩琵琶鶴翔会 六月十一日六時半東京シリーズ第一回 日本橋第一証券ホール、主催同会。俊寛・緒方満博・絃鶴田錦史、小栗栖・笹本鶴登、小敦盛・内山鶴崇、湖水乗切、半田鶴炎、絃半田鶴朱、木村重成・石坂鶴明、春の宴・三宅博・田中雪男、半田綾子、笙豊英秋、扇の的・立川鶴祥、大楠公一友吉鶴心。

筑前琵琶紅会 六月十三日十二時半東京第十三回演奏会 京日本橋三越劇場。天の羽衣・旭蓮・旭美美・旭盛・絃旭粧・旭蓮、旭昌・旭治・旭芳・若き敦盛・若宮旭登、太

三位研修同志会 六月二十二日昼三鷹市第十五回例会 上連雀公会堂。門琵琶。お江戸日本橋連弾・錦幽・錦道、橋大隊長(中)坂本錦道、俊寛(上)伊集院鼓城、石重丸(上)篠宮榎水、湯陽江(上)八束一峰、元寇・清水源城、勸進帳・山本隆水、台湾入・田戸桜丸、彰義隊・井会松映

日本琵琶芸術 六月十六日一時一七時柏台会六月例会 ビル。お江戸日本橋、門琵琶連弾・山崎錦幽、河中島・関口脩声、黒田武士・錦幽、平泉・青木晴城、道成寺・石田脩水、石重丸・山本隆水、船弁慶・若宮旭登、松の廊下・日原錦楼、台湾入・若林杏雨、掛合・木下脩水、旗水、城山・杉山旗水、売花翁・錦楼。以上研修後小宴、尚七月例会は二十一日昼柏ビル六階で開催の予定。

六月二十三日一時一八 大阪寺尾旭吉栄女史の寺尾ビル落成祝賀会 史が昨年来東住吉区駒川町に新築中の寺尾ビルが今般落成しその祝賀宴が六月二十六日に開かれ筑前琵琶会の重鎮を始め二十数氏が列席して祝った。当日演奏者は堀田旭甲・七福神、山崎旭萃・戦艦大和、矢吹旭美津・茨木、田中鶴水・平野国臣、辻旭城・坂崎出羽守、石橋旭嶺・寺尾松風、尚寺尾女史は琵琶の外柀屋志津松、寺尾松風の号を持つ多芸多趣味の人である。

六月二十三日一時一八 大阪寺尾旭吉栄女史の寺尾ビル落成祝賀会 史が昨年来東住吉区駒川町に新築中の寺尾ビルが今般落成しその祝賀宴が六月二十六日に開かれ筑前琵琶会の重鎮を始め二十数氏が列席して祝った。当日演奏者は堀田旭甲・七福神、山崎旭萃・戦艦大和、矢吹旭美津・茨木、田中鶴水・平野国臣、辻旭城・坂崎出羽守、石橋旭嶺・寺尾松風、尚寺尾女史は琵琶の外柀屋志津松、寺尾松風の号を持つ多芸多趣味の人である。

六月二十三日一時一八 大阪寺尾旭吉栄女史の寺尾ビル落成祝賀会 史が昨年来東住吉区駒川町に新築中の寺尾ビルが今般落成しその祝賀宴が六月二十六日に開かれ筑前琵琶会の重鎮を始め二十数氏が列席して祝った。当日演奏者は堀田旭甲・七福神、山崎旭萃・戦艦大和、矢吹旭美津・茨木、田中鶴水・平野国臣、辻旭城・坂崎出羽守、石橋旭嶺・寺尾松風、尚寺尾女史は琵琶の外柀屋志津松、寺尾松風の号を持つ多芸多趣味の人である。